

はじめに

この『大学で学ぶ工業簿記』は、近畿大学経済学部「簿記論Ⅲ」のテキストとして書き下ろしたものです(*^_^*)

今まで、大学では「簿記論」というと？本来なら「経営学部」や「商学部」で学ぶイメージがありました。しかし社会に出ると、経理だけでなく総務や営業に携わる人でも簿記検定の取得が義務づけられていることが多く、簿記は決して特別な人だけが学ぶものではなくなっています。今や、小学生でも日商簿記検定を取得する時代に突入しているのです(^_^;)

この本では、工業簿記に対して「特に興味はない(-_-)」という人にこそ♪楽しんでペンキョーしてもらえることを心がけて執筆しました(*^_^*)もし興味が出てくれば→簿記検定や税理士試験、会計士試験などにチャレンジすればいいし、そこまででなくても？経済学部を卒業した人に対する「世間の期待レベル程度」の教養(?)を身につけることが出来れば、それ「十分」だと思います。

著者自身も、これからみなさんといっしょに勉強出来ることがとても楽しみでわくわくしています(*^_^*)♪今から約半年後、1コマの授業が終わったときには「この授業を選んで良かった〜(o^o)〜」とみなさんに思っていただけのように、一生懸命がんばりたいと思えます(=^_^=)

2012年3月

島田信子

大学で学ぶ工業簿記 もくじ

1日目	経済学から見た「簿記論」	1
2日目	工業簿記概論	7
3日目	個別原価計算の特徴	13
4日目	部門別個別原価計算	19
5日目	総合原価計算の特徴	25
6日目	工程別総合原価計算	31
7日目	組別・等級別総合原価計算	37
8日目	標準原価計算	43
9日目	直接原価計算	49
10日目	CVP分析	55
11日目	活動基準原価計算	61
12日目	統計学と簿記	67
13日目	微分と簿記	73
14日目	連立方程式と簿記	79
15日目	社会科学としての「簿記論」	85

1日目 経済学から見た「簿記論」

月 日()

【今日の要点】

- ①経済学は、'人間の欲望'や'思惑'を含めて考える学問である
- ②ミクロ経済学でいう「利潤＝総収入－総費用」と、簿記上の「収益－費用＝純利益」は、全く違う考え方である
- ③生産者(企業)の行動を→「記録」・「計算」・「整理」するのが簿記である

1. 経済学とは(ˆoˆ)？

このグラフは、ミクロ経済学でベンキョーする「労働の供給曲線」で(ˆoˆ)



供給とは？この場合は、労働者が'働くこと'です。たくさん働いたら→お金も増えますが、経済学で考える労働供給曲線は、あるところまで増えたら→ブーメランみたいに戻ってくるグラフになります。なぜか(-_-)？大ざっぱに言うと、フツーの人間は「ある程度まで働いたら→お金よりも休みが欲しくなる」ということを含めて考えているからです。

経済学では、「疲れたら休みたい(T_T)」とか「稼げるようになったらいい暮らしをしたい(*_*)」というような、人間の欲望や思惑を含めて考える学問です。経済学のベンキョーで「〇〇曲線」というのがたくさん出てくるのは、世の中が「まっすぐな直線」で片づけることが出来ないくらい複雑だということですよ(笑)。

これから学ぶ「簿記論」は、もちろん数式やグラフもたくさん出てきますが(ˆ_ˆ;)、そのほとんどは「直線」で表すことができます(ˆoˆ)♪それだけ、経済学に比べると？'わかりやすく単純なモノ'を扱った学問なのかもしれません(*_*)

2. ミクロ経済学から見た「簿記論」とは(*^_^*)?

経済学は、大ざっぱには?「マクロ経済」と「ミクロ経済」に分けることができます。前者は「世の中の景気がどうか?」とか「物価はどうなのか?」といったような、経済社会全体を捉えて考えています。これに対し、後者は「生産者(企業)」とか「消費者(家計)」という、ある程度小さい単位で物事を考えていきます。ミクロ経済では、'生産者と消費者が市場で出会って価格が形成される(^o^)'みたいな言い方がフツーに出てきます。。。

ミクロ経済学から「簿記論」を眺めると?→もっともっと小さな単位を扱うベンキョーに見えます。例えば?ミクロ経済なら、「生産者(企業)」が財やサービスを生み出し→それが市場でどう価格が形成されるか?→需要と供給のバランスで…となるとところが、簿記では?その企業が作ってる「財」や「サービス」が一体いくらで作れてるのか(-_-)?そんな小さなハナシを計算していることになります。

ミクロ経済学で出てくる式で、

$$\text{「利潤} = \text{総収入} - \text{総費用}」$$

というのがあります。経済の世界では、この'利潤'を最大化することが生産者(企業)の目的であると言えるのですが、簿記の世界ではこの式とよく似たもので

$$\text{「収益} - \text{費用} = \text{純利益}」$$

というのが出てきます。ミクロ経済と簿記のベンキョーする範囲が違うので、もちろん式の意味も違ったものです。大ざっぱに言うと?「上の式」のほうが大きな数字で、「下の式」はそれよりも小さな数字になります。その理由は?経済学では人間の欲望や思惑などが含まれるのに対し、簿記ではレシートや領収証などの'証拠'がある数字し、計算に入れてはいけないからです(*^_^*)

3. 簿記とは(^o^)?

ベンキョーの言葉では、「簿記とは、企業におけるさまざまな経営活動を、定められた帳簿に、継続的に記録・計算・整理する方法である」といいます(^_^;)ミクロ経済風(?)に言い換えると、「簿記とは、財の供給にかかる生産者行動を、記録・計算・整理すること」といったカンジでしょうか(^_^;)いずれにせよ、簿記自体は①記録・②計算・③整理という「作業」であり、タイピングやソロバンと同じような「実学」と言えます。「簿記論」は、その作業自体を→どうすればより速く正確に出来るか?ということ突き詰めて考える学問と言うことができます(*^_^*)

簿記とは、定められた帳簿に、継続的に

①記録・②計算・③整理

する方法である

4. 簿記の前提条件(*^_^*)

簿記のハナシをするときに、「これは当たり前が決まっていること」とされてる前提条件があります。前提条件というのは？

「これがなければ成り立たない(>_<)」

というものです。ペンキョーの言葉では「会計公準」と呼んでいますが、カンタンに言うと？簿記を語るには「3つの約束事」がある…というハナシです(*^_^*)

- ①会計単位について…簿記では、お店(企業)の活動についてのみ扱うこと
(個人的なハナシは別会計である)
 - ②会計期間について…簿記では、1年とか半年とかの「期間」に区切ること
(その区切った「期間」が繰り返されると考える)
 - ③金額表示について…簿記では、お金で表せるハナシだけを扱うこと
(原則として、日本(簿記)は「円」で表示すること)

例えば？どんな会社でも「会社は社長さんのもの」ではありません。株式会社だったら「株主のもの」であり、個人企業だったとしても「お店」と「店主個人」は全く別のハナシです。簿記で扱うのはお店や会社のハナシであって→個人的なことまでは扱わない…というのが当たり前が決まっています。

また、会計期間については大半の会社は「1年間」を区切りにして計算しています。自営業の個人でも？フツーは1月～12月までの1年間を区切りして計算することになっています。毎年、「3月15日までに確定申告をしましょう」というのを聞いたことがあるかと思いますが、あれは？「1月～12月までの所得を計算して→翌年の3月15日までに税務署まで届けてください(*^_^*)」という意味です。

3つめの「金額表示」は、難しい言葉だったら「貨幣的測定の公準」と呼ばれているハナシです。①お金で測れないハナシは簿記で扱わない！ということと、②ドルやユーロみたいなお金でも→円に直して書くように！という2点について書いてあります。簿記は「記録・計算・整理」することなので、

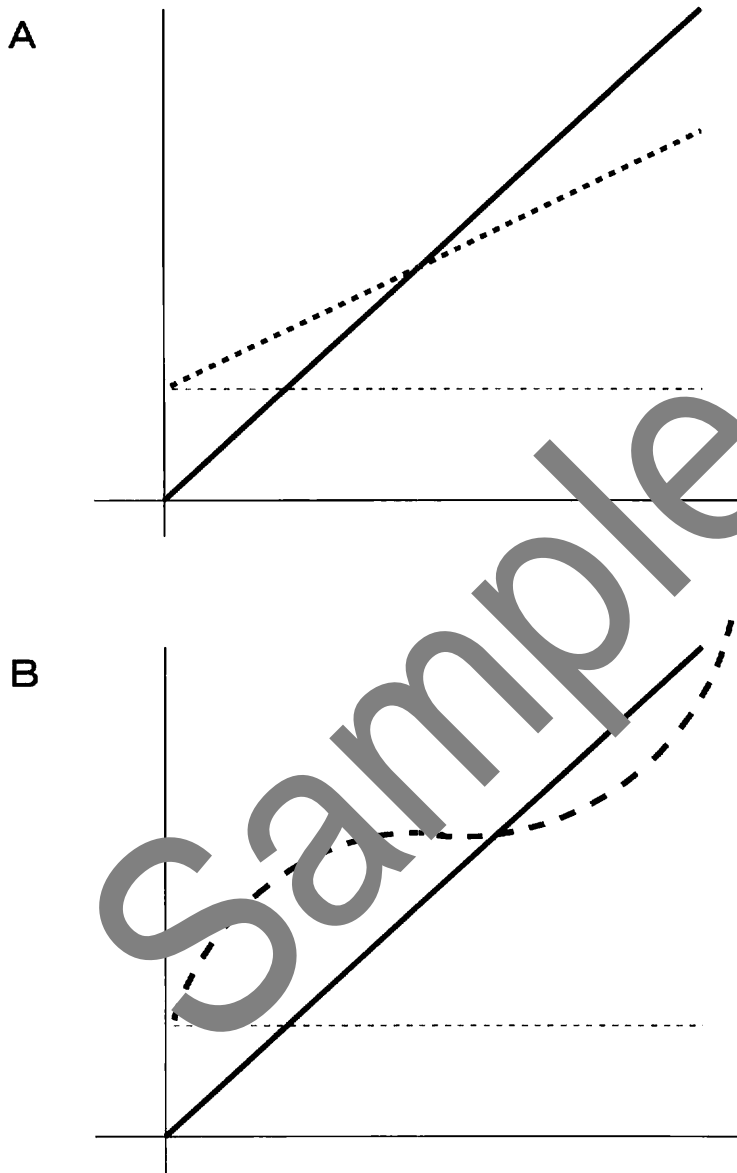
「店長がオトコマエ(*^_^*)♪」…とか

「みんなで力を合わせてがんばってます＼(^o^)/」…とか


そんなことを帳簿に書いても？計算することが出来ません(^_^;))

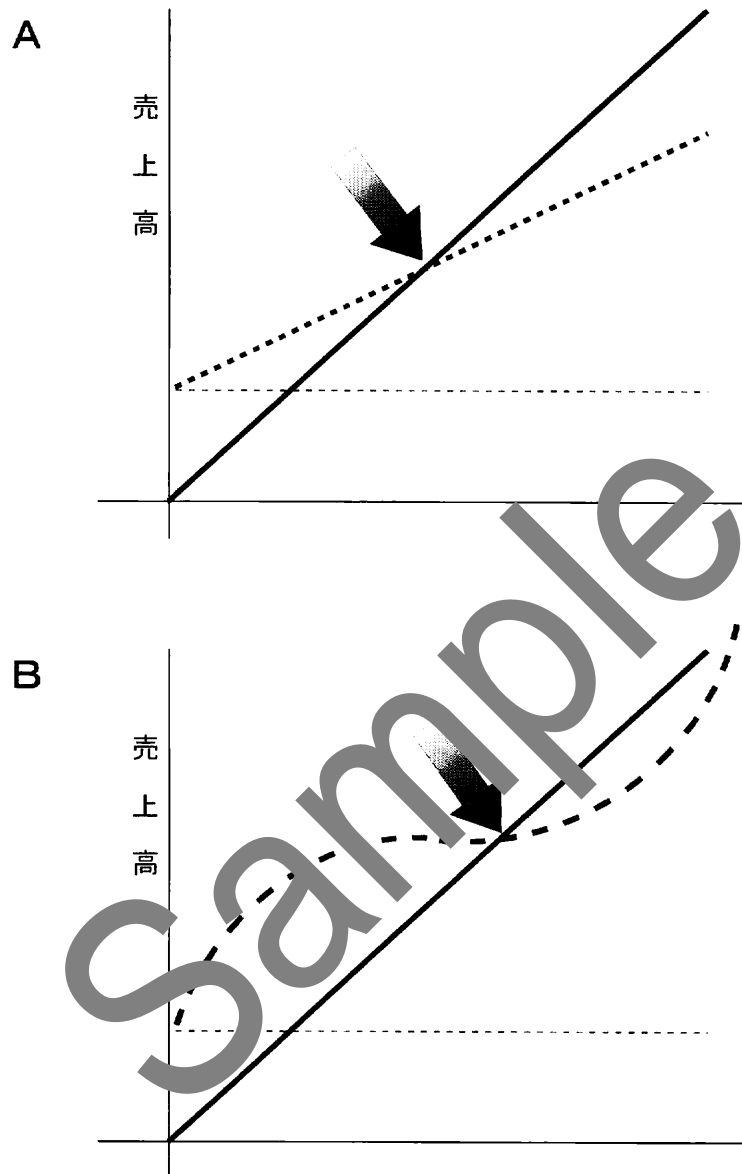
経済学部のアナタへ \ (^o^)/

2つのグラフを見比べてください(*_*)



さて、どちらが経済学で出てくるグラフでしょうか(^o^)? 答はBです♪「逆S字曲線」になっている点線は、「可変費用」つまり「忙しくなるにつれて増える費用」のことです。経済の世界では? 「人間の欲望」や「思惑」も含めて考えるので、このような曲線になってきます。

ところで(^o^)? この2つのグラフ、どちらも「損益分岐点」を示すものです。矢印  で示す、グラフの交点が損益分岐点で→大ざっぱに言うと? 会社の売上高がそこまで届いていればひとまず安心、それまでの間はずっと赤字になってるということです。損益分岐点は、ビジネスの世界ではあまりにも有名なハナシです(*_*)



工業簿記のベンキョーをすると、

- ・グラフの意味を読み取ったり (^o^)
- ・矢印が示す「損益分岐点」を計算で求めたり (^o^)
- ・赤字や黒字の「幅」を求めたり (^o^)

いろんなことが出来るようになります。ミクロ経済学のベンキョーも、今まで以上によくわかるようになるはずですよ (*^_^*)

しっかりベンキョーして♪

→「よりよく生きるための糧(かて)」にしてください (^o^)/

2日目 工業簿記概論

月 日()

【今日の要点】

- ①工業簿記は、製造業向けの簿記である
- ②作り方に合った、いろいろな原価計算方法がある
- ③工業簿記の世界では、「原価計算基準」がルールブックである

1. 工業簿記とは(^o^)?

工業簿記とは、自分で売りモノを作ってる人(製造業)向けの簿記です。簿記にはいろいろな種類があって、販売業向けの「商業簿記」や、銀行などの「銀行簿記」、病院などの「医療簿記」、建設業向けの「建設簿記」などがあります。

例えば?パン屋さんでも→パンを買ってきて(仕入れ)→利益をつけて売る(販売)だけなら?「商業簿記」が合っています。ところが、自分でパンを焼いて(自製)→売(販売)だったら?「工業簿記」が合っています。パンに限らず、自分で売りモノを作っている場合には、

「1ついくらで作れるのか?」

を計算しなくてはなりません。パンだった?小麦粉+水+砂糖などをどれだけ入れて→電気代とかガス代をどれだけ使って→人件費もかかるだろうし→たまには失敗もするだろうけど(^_^;)→結局、1ついくらで作れたのか?その金額に利益をつけて売らないと、商売としては儲かりません。

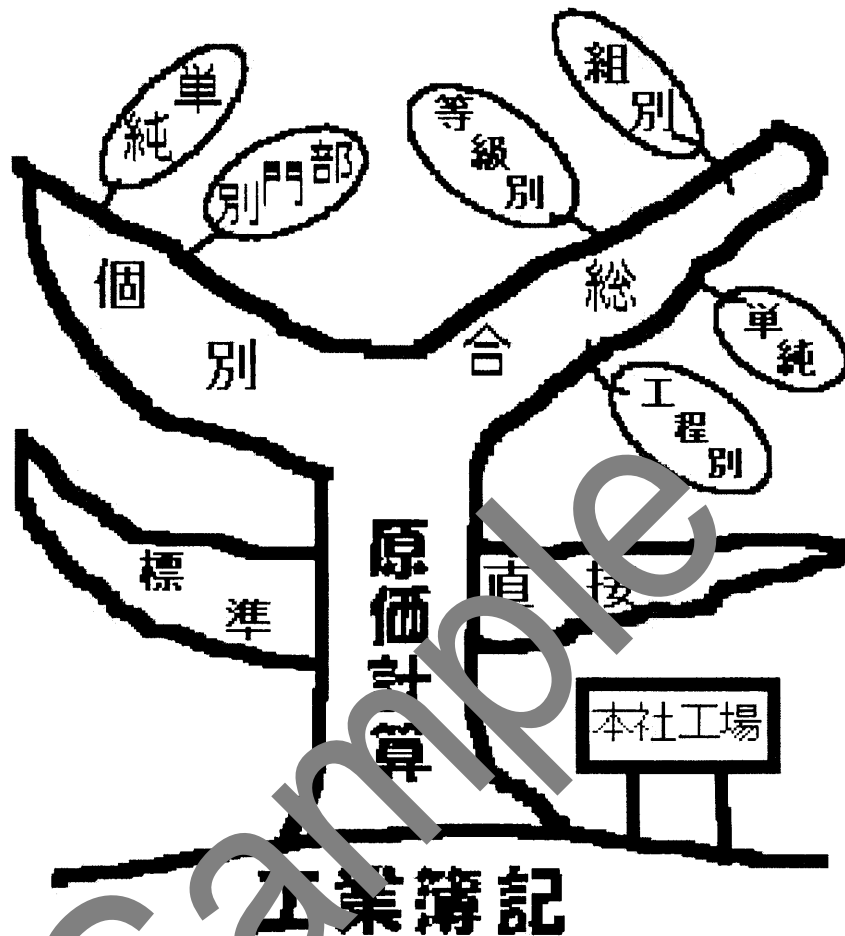
「1ついくらで作れたか?」を計算することを、原価計算と言います。工業簿記の大きな特徴は、フツーに帳簿を書くだけではなく、原価計算が簿記の中に組み込まれているところです。原価計算はモノの作り方に合わせていろいろな種類があります。原価計算は非常に重要で、仮に1円間違えただけでも?→年間1億個が売れる商品だったら→1億円の間違いになります(^_^;)但し、細かい計算をすればするほど→計算自体に人件費などのコストがかかるので(T_T)→どの程度まで計算するか?も考えないといけません。

2. 原価計算の種類(*^_^*)

原価計算は、大きく分けると2種類しかありません。

原価計算 $\left\{ \begin{array}{l} \text{個別原価計算 (受注生産・オーダーメイド向け)} \\ \text{総合原価計算 (大量生産・見込生産向け)} \end{array} \right.$

図にすると、こんなカンジです(^o^)



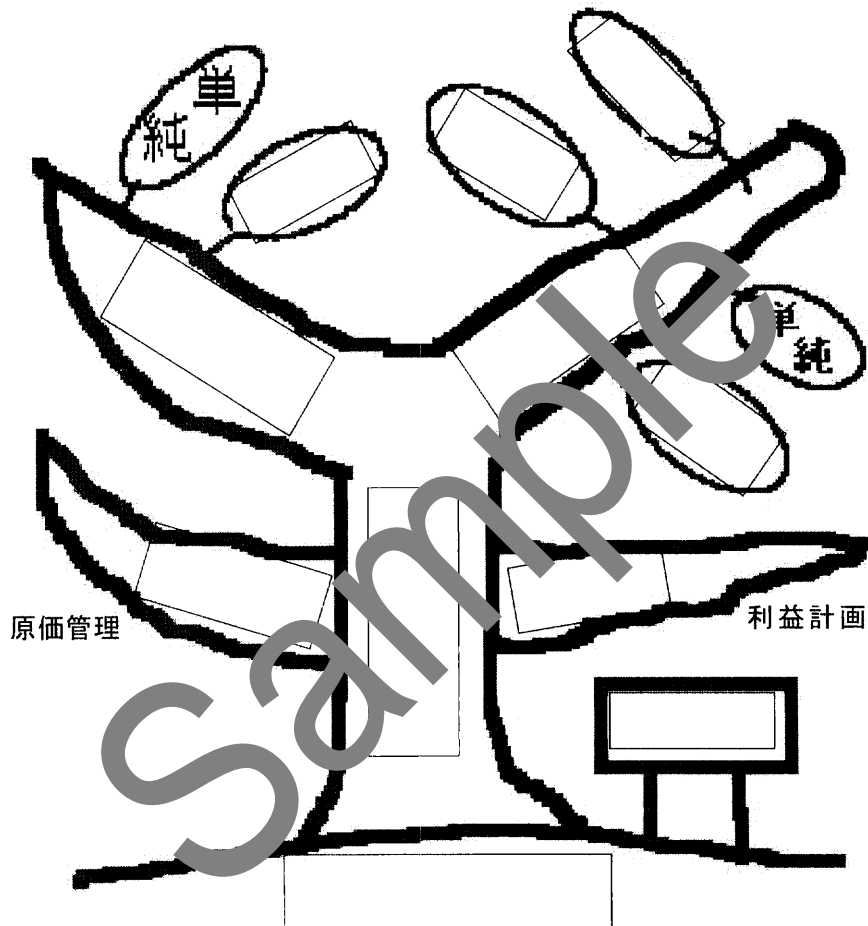
個別原価計算は、フツウは一つ一つの原価を計算するので→材料・人件費・その他経費などを足し算するだけで求められます。同じ会社で2つ以上のモノを作っていると、そのどちらにも使える共通費が出てくる可能性があるので→共通費を各自でワリカンするのが主な仕事になります。それが「部門別計算」になると？→ワリカンの仕方が細くなり→モノを作っていく過程ごとにワリカン基準を考える…そんな計算が必要になります。

総合原価計算は、大量生産をしている場合の計算方法です。いくつ作ったか？大量生産の場合はそれが数え切れないくらいの数になるので→作った数を知るためには？「まだ出来てない分」から逆算して求めることになります。最後に、全体の原価を「作った数」で割り算して→1つ当たりの原価を出すという手順です。フツウの単純総合以外にも、必要に応じて「工程別」や「等級別」・「組別」などの計算方法もベンキョーしていきます(^o^)

標準原価計算と直接原価計算は、ちゃんと自分が作ってるモノの原価が出せるようになってから→その応用としてベンキョーすることです。標準原価計算は「標準」と自分を比べ→高いのか？安いのか？などを比較分析して→原価を管理していきます。直接原価計算は「いくつ売れたら家賃が払えるか？」などの、利益計画に用いられる計算手法です。

本社工場会計は、原価計算そのものではなくて「帳簿の書き方」になります。本社で材料を仕入れて→それを工場に売って→作った製品を本社に売る…みたいなことがフツーに行われています(^_^;)

【例題1】 の中に入る語句を下から選び、「工簿の木」を完成させましょう\(^o^)/



〈語群〉

工業簿記・原価計算・個別・総合・部門別・工程別・組別・等級別・標準・直接
本社工場

3. 原価計算の具体例(*^_^*)

例えば、「お弁当屋さん」の場合で考えてみると？

お店の特徴	お勧めの計算方法
<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の要望に合わせたお弁当を作っている ・原則として、最初から最後まで1人で作っている 	単純個別原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の要望に合わせたお弁当を作っている ・「ゴハン責任者」とか「揚げ物責任者」が決まっている 	部門別個別原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・作業の一連の流れが機械化されている 	単純総合原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・「ゴハンのみ」や「トッピング」のメニューがある 	工程別総合原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・同じメニューでも「洋風」と「和風」がある 	組別総合原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・メニューに「大盛り」や「小盛り」がある 	等級別総合原価計算

こんなカンジです(^o^)それぞれの原価計算方法がどんなものであるか？は、これからじっくりとベンキョーしていくことになります。

ちゃんとお弁当の原価を計算するようになるね！→いくらで売って？いくら儲かるのか？が正しくわかるようになるはずですよ(^o^)さらにそこから知りたくなるのが…

知りたくなること	お勧めの計算方法
<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当を、ムリ・ムダ・ムラなく作れているか？ ・お弁当の原価をコントロールしたい 	標準原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・最低どれくらいの売上があればやっていけるのか？ ・もう1人雇うには？など、いろいろな計画を立てたい 	直接原価計算

あと、お弁当やさんがメチャメチャ大規模になって？→「本社」と「各店舗」というカンジになれば「本社工場会計」が必要になってきます(^o^)統計学の知識や、微分や方程式などの数学、その他いろいろなベンキョーがお弁当やさんの経営を助けてくれるはずですよ(*^_^*)♪

4. 「原価計算基準」について(^_^;)

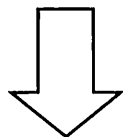
厳密には「法律」ではありませんが、工業簿記の世界にもルールブックのようなものが存在します。法律の世界だったら有名な「六法全書」みたいな本で→それが簿記だったら「会計法規集」というカタチでまとめているものです。その中に

『原価計算基準』 昭和37年11月8日 大蔵省企業会計審議会

というのがあり、これを頼りにすれば→正しい原価計算が導き出せるであろう…というものです。

『原価計算基準』の前文に、こんな一節があります(^o^)

原価計算基準は、かかる実践規範として、わが国現在の企業における原価計算の慣行のうちから、一般に公正妥当と認められるところを要約して設定されたものである。



この文章をカンパニにすると(??)?

原価計算基準は、ルールブックとして活用してもらえないように、今まで実務の世界で言い伝えられてきたいろいろなやり方から、「フツーに言えたら正しいはず(^o^)」と思えることだけを抜き取って作成されたものである。

この原価計算基準には、「原価とは何ぞや(??)?」というレベルから→各原価計算方法の細かい「やり方」とか、この世界に出てくるベンキョー言葉の「定義」とか、ホントにルールブックとして頼りになることがたくさん書いてあります(*)(*)

ただ、この原価計算基準が制定された「昭和37年」から→今までどれだけの年月が経ってるか(??)? この、約50年間で実務の世界(特に、工場などの製造現場)はものすごく様変わりしています。制定当時はまだ「高度経済成長時代」よりも前で、これより少し前の「昭和31年」には経済白書に

もはや、戦後ではない\(^o^)/

と書かれたその言葉が→その年の流行語になったような時代です(^_^;) もう歴史の教科書に載ってもいいくらい昔に制定された「原価計算基準」が、なぜ今まで一度も改訂されたり追加されたりすることもなく50年も経過したのか(??)? その理由も含めて、ワタシたちはこれから工業簿記のことをしっかりとベンキョーしていかななくてはなりません。

3 日目 こべつげんかけいさん 個別原価計算の特徴

月 日()

【今日の要点】

- ①個別原価計算は、原価を個別に計算する方法である
- ②受注生産(オーダーメイド)に向いている
- ③キーワードは「せいぞうかんせつひ はいふ製造間接費の配賦」←(共通費をワリカンすること)

1. 個別原価計算とは(^o^)?

個別原価計算とは、フツーは受注生産(オーダーメイド)の場合に用いられる計算方法です。お客さんに頼まれてから作り始めるので、いろいろなお客さんがいたとしても、それぞれの注文ごとに原価を計算していきます。但し、いろいろな注文に共通で使える費用が発生しているときは→その部分をみんなでワリカンする必要が出てきます。日常生活の場合と同じく?

各自の負担額=自分で使ったお金+ワリカン負担分

ということです(^o^)日常生活ではワリカンと言えば「人数で割り算」が多いかもしれませんが、ベンキョーの世界では「何を基準にしてワリカンするか?」ものすごく真剣に考えます。ワリカン結果によって、お客さんが注文してくれた1つひとつの製品原価が大きく変わってくるのです。ってことは? その製品を売ることによる利益(儲け)も大きく変わってくるということです(^_^;)

【例題1】

友達4人で遊びに行った帰り、雑電に乗り遅れて→みんなでタクシーに乗ることになりました。タクシー代をワリカンする方法に、アナタならどのような方法が考えられますか(^o^)?

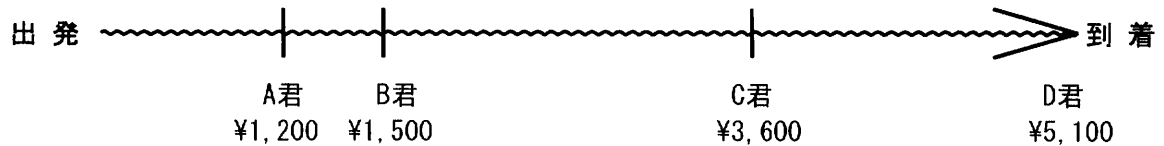
(アナタの解答)

(解答例)

- ・フツーに4で割る
- ・家が遠い人と近い人で差をつける
- ・お金持ちの人とピンボーな人を考慮する . . . などでしょうか(^_^;)?

【例題2】

みんなで話し合った結果、タクシー代のワリカンが「自宅に着いたときの料金メーターがいくらだったか？」の割合で計算することになりました。後日ケンカしないためにも、キッチリと計算してください(^o^)



- * タクシー代の合計5,100円を、A君・B君・C君・D君の4人でワリカンします
- * 10円未満の端数は四捨五入します

(あなたの解答)

A君	B君	C君	D君
円	円	円	円

(解答例)

A君	B君	C君	D君
540 円	670 円	1,610 円	2,280 円

合計5,100円	A君	1200	4	\rightarrow	$5100 \times 4 \div 38 = 536.84$	…約 540円
	B君	1500	5	\rightarrow	$5100 \times 5 \div 38 = 671.05$	…約 670円
	C君	3600	12	\rightarrow	$5100 \times 12 \div 38 = 1610.52$	…約 1,610円
	D君	5100	17	\rightarrow	$5100 \times 17 \div 38 = 2281.57$	…約 2,280円
			計	38		計 5,100円

【例題3】

次の問いを、よく考えてみてくださいm(_ _)m

(1) もしフツーに4で割ってたら→1人当たりいくらになってたか？そうすると誰がどんな文句を言う可能性があると思いますか(^_^;)？

(あなたの解答)

(解答例)

フツーに4で割ったら→ $5,100円 \div 4人 = 1,275円/人$ となって→家が近いA君やB君からは「そんなに高いなら歩いて帰る(-_-)」と文句が出るかもしれません。でも？みんな仲良しだから文句は出ないかも知れませんm(_ _)m

(2) ワリカン方法の決め方に、「もめないコツ♪」があるから→それは何でしょう(^o^)?

(あなたの解答)

(解答例)

「男前が払う(^o^)」みたいな条件と譲り合い(?)になるので、少なくとも「数字で表せる条件」でないといけません。出来ればその恩恵を受けてる「量」に比例しているほうが全員が納得しやすいのかも(*^_^*)

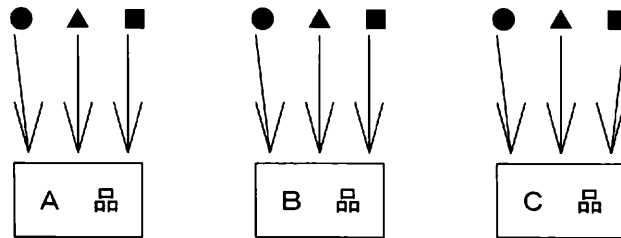
2 共通費のワリカン基準(*^_^*)

モノの原価は、材料費や人件費などいろいろな費用で出来ています。それらがハッキリと「どの製品を作るために使ってるのか？」がわかる場合とわからない場合とがあります(^_^;)

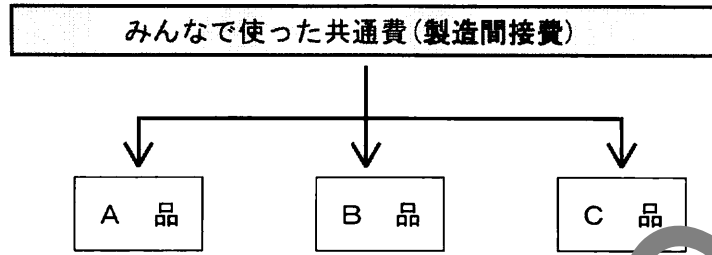
- ・ どの製品の費用かハッキリわかる→「直接費である(^o^)」という
- ・ ハッキリ決められないとき→「間接費である(^o^)」という

間接費は、個別原価計算の場合は「製造間接費」という名前でまとめるのがフツーですが、もしも大量生産なんかで総合原価計算を採用している場合には「組間接費」という名前になったりします。いずれにせよ、間接費とは「みんなですべて使った共通費」なので→何かの基準でワリカンしなければなりません。

〔受注生産の場合〕

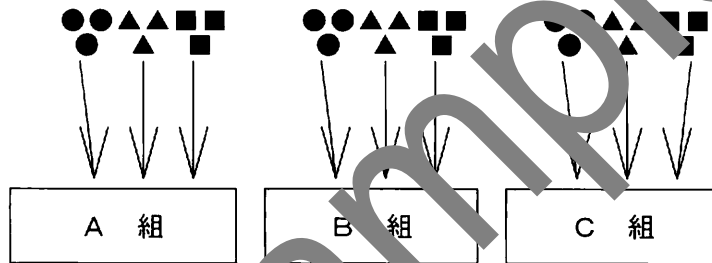


ハッキリわかる費用は
ちよつか
「直課」します(^o^)

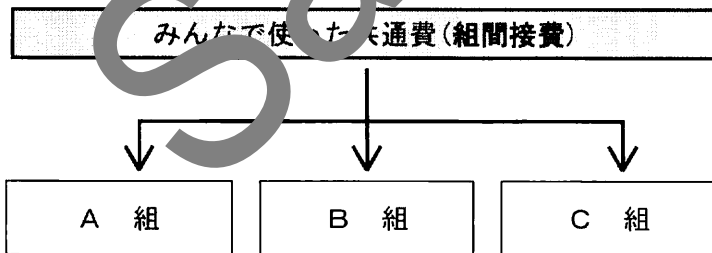


製造間接費は
はいふ
「配賦」します(^o^)

〔大量生産の場合〕



ハッキリわかる費用は
ちよつか
「直課」します(^o^)



組間接費は
あんぶん
「按分」します(^o^)

……というわけで、どちらもほとんど同じです(*^_^*)♪

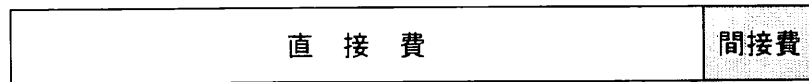
共通費のワリカン基準のことを、「間接費の配賦基準」といいます(^o^) 大ざっぱにいうと？配賦基準は数字でなければならず、ベンキョーの世界では「金額法」と「時間法」があります。

- ①「金額法」…何かの金額の割合で決める
(例: 直接材料費の何%とか、直接労務費の何%とか)
- ②「時間法」…何かの「1時間当たりの金額」で決める
(例: 直接作業時間の1時間当たりとか、機械運転時間の1時間当たりとか)

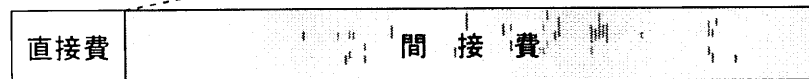
3 共通費が抱える問題点(^_^;)

みんなで使った共通費をワリカンすること自体は？そのワリカン基準さえしっかりしていたらあまり問題はないかもしれませんが、但し、ワリカンと必要とする部分が全体に占める割合が

昔はこんなカンジ？

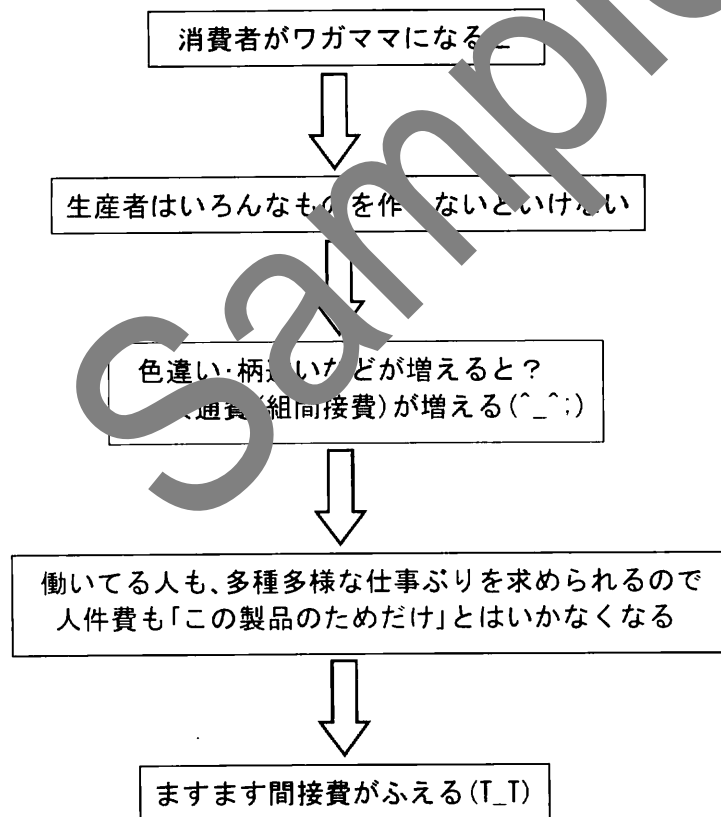


時代とともに今は…



というふうに変化してきています(^_^;)

間接費が増えてきた原因とは？11日目の「活動基準原価計算」でもベンキョーしますが、消費者の好みがワガママになってきていることが挙げられます。



こんなカンジで間接費はドンドンと増えていきます(^_^;)モノの原価を正確に知りたいと思っても→その大部分がワリカンの結果によるということとは？→ホントにその原価でよかったのか(-_-)？いろいろ心配になるはず。そこで、間接費のワリカンについてはまた、11日目の「活動基準原価計算」で全く違った発想についてベンキョーしたいと思います(*^_^*)

紙とペンでつぶやきたい人はこちら(*^_^*)

今日の授業について(^o^)?

もっとつぶやいてください(^o^)♪

ケータイとかでつぶやきたい人はツイッターへ(^o^)

検 印

4日目 部門別個別原価計算

月 日()

【今日の要点】

- ①部門には、「製造部門(メイン)」と「補助部門」がある
- ②部門別計算では、メイン部門ごとにワリカン基準を決める
- ③補助部門費をメインに負担させる計算には、「ちよくせつはいふほう直接配賦法」や「そうごはいふほう相互配賦法」などがある

【例題1】

若い二人が結婚することになりました\(^o^)/早速、両家の話し合いが行われ→結婚費用をどう負担するか?が以下のように決まりました。新郎側と新婦側が、お金(それぞれいくらずつ用意すればよいか?間違えないように計算してくださいm(_ _)m

- ・新郎側・・・結納金100万円と、新居のアパートを借りるための保証金50万円を負担します
- ・新婦側・・・花嫁道具一式150万円と、結納返しの30万円を負担します
- ・結婚式と披露宴の費用合計600万円は、両家の招待人数で按分することになりました
(招待客200人の内訳：新郎側120人、新婦側80人)

(あなたの解答)

新郎側 万円 新婦側 万円

(解答例)

新郎側 万円 新婦側 万円

- ・結婚式と披露宴の費用合計600万円

←	新郎側 120人	$600万 \times 120 \div 200 = 360万$
	新婦側 80人	$600万 \times 80 \div 200 = 240万$
	計 200人	600万

- ・新郎側・・・結納100万+新居50万+結婚式360万=510万
- ・新婦側・・・道具150万+結納返し30万+結婚式240万=420万

(別解?)新婦側は、新郎側から結納金をもらうので→420万-100万=320万もアリですが、実際には?結納金はそのまま娘のために「持参金」(ってかヘソクリ?)として持たせる親が多いと思います(*^_^*)

1. 部門別個別原価計算とは(^o^)?

部門別とは？共通費をワリカンするときの計算方法の一種です。【例題1】では結婚式に関する費用を計算しましたが、結婚式と披露宴にかかる600万円をここでは単純に「招待人数」だけで按分しているの→これはフツウの「(単純)個別原価計算」になります。

続きの【例題2】では、600万円の内訳がどんなものであったか？それを「部門別」に分けて計算していきます。メインの部門として①宴会部門と②美容部門、その他の部門として「写真部門」と「お車代部門」と「チップ部門」というカンジです。支出のメインである「宴会部門」と「美容部門」について、それぞれにふさわしいワリカン基準を決めましょう\(^o^)/という趣旨で、別に？セコイというのではなくて→「より正確な原価計算」のために行っていると考えなければなりません。

「メイン部門」と「その他の部門」に分けているのは→「わざわざワリカン基準を決める価値があるか(--)?」というハナシです。例題では「披露宴」や「お色直し」は結婚式に不可欠なものと考えていて、逆に？写真とかお車代とかチップは、披露宴やお色直しを盛り上げるための必要経費に過ぎません。それらがなくても披露宴やお色直しは出来るし、あくまでも補助的な役割なので、ベンキョーの言葉では「補助部門」と呼ばれています。モノを作る仕事では、メイン部門は「製造部門」と呼ばれています。

【例題2】

先ほどの続きです。両家で負担する結婚式と披露宴の費用上、もうちょっと細かく考えてみることにします。600万円の内訳は、大きく分ける上「宴会場」と「美容室」です。次のような場合に、トコトンしつこくワリカンしたら→どんな答になるのか(--)？結婚式と披露宴の費用だけでいいので、手順に従って計算してみてくださいm(_ _)m

〈データ〉メインの支出：	宴会場(料理・司会・引出物等)・・・	350万円
	美容室(衣装・着付・セット等)・・・	200万円
その他の支出：	写真室(DVD作成費・集合写真等)・・・	30万円
	お車代(仲人・受付・主賓等)・・・	10万円
	お日チップ(ホテルスタッフ等)・・・	10万円
	計	600万円

- ・「その他の支出」は、次の割合で「メインの支出」に振り分ける
写真室…宴40：美60 お車代…宴80：美20 チップ…宴50：美50
- ・最終的な「メインの支出」は、次の基準で両家にワリカンする
宴…招待人数(新郎120人：新婦80人) 美…お色直しの回数(新郎2回：新婦3回)

(アナタの解答)

新郎側

万円

新婦側

万円

〈手順1〉「その他の支出」を、それぞれ「メインの支出」に振り分ける

	宴会場	美容室
写真室	40%	60%
お車代	80%	20%
チップ	50%	50%

〈手順2〉1で計算したものを含めると、メインの支出はそれぞれいくらになるか？

	写真室	お車代	チップ	
宴会場・・・350万円+	()	()	()	= ()万円
美容室・・・200万円+	()	()	()	= ()万円

〈手順3〉単位当たりのメイン支出を計算する

- ・招待人数1名当たりの宴会費用・・・()万円÷300人=()円/人
- ・お色直し1回当たりの美容費用・・・()万円÷5回=()万円/回

〈手順4〉両家の負担額を計算する

・新郎側	宴会費用・・・()円×12人=()万円
	美容費用・・・()万円×2回=()万円
	計 ()万円
・新嫁側	宴会費用・・・()円×80人=()万円
	美容費用・・・()万円×3回=()万円
	計 ()万円

〈手順5〉両家の負担額合計が→合計600万円になってるか？を必ず確認する(*^_^*)♪

(解答例)

新郎側	315 万円	新婦側	285 万円
-----	--------	-----	--------

(注)結婚式と披露宴の費用600万円の按分だけです

〈手順1〉

写真室(30万円)・・・宴会(40%)=12万円・美容(60%)=18万円
 お車代(10万円)・・・宴会(80%)=8万円・美容(20%)=2万円
 チップ(10万円)・・・宴会(50%)=5万円・美容(50%)=5万円

〈手順2〉

	写真室	お車代	チップ	
宴会場・・・	350万円+(12万)	+(8万)	+(5万)	= (375)万円
美容室・・・	200万円+(18万)	+(2万)	+(5万)	= (225)万円

〈手順3〉

- ・招待人数1名当たりの宴会費用・・・(375)万円÷200人=(18,750)円/人
- ・お色直し1回当たりの美容費用・・・(225)万円÷5回=(45)万円/回

〈手順4〉

・新郎側	宴会費用・・・	(18,750)円×120人=	(2,250)万円
	美容費用・・・	(45)万円×2回=	900万円
			計 (3,150)万円
・新嫁側	宴会費用・・・	(18,750)円×80人=	1,500万円
	美容費用・・・	(45)万円×3回=	1,350万円
			計 (2,850)万円

2. 直接配賦法と相互配賦法(*^_^*)

補助部門で使ったお金を→どうやってメイン部門に振り分けるか？その方法には、大きく分けると①直接配賦法と②相互配賦法の2つがあります。【例題2】で計算したのは「直接配賦法」です。

直接配賦法・・・直接、メイン部門だけに負担させる

相互配賦法・・・補助部門の中でも、相互にも負担させる

【例題2】では、写真室もお車代もチップも→それぞれメイン部門にどうやって負担させるか？を計算していました。これを「相互配賦法」で考えたとしたら？

- ・「お車の運転手さんにもチップを渡したっけ(-_-)？」・・・とか
- ・「カメラマンの人にもチップを渡したっけ(-_-)？」・・・とか

このような、補助部門同士のハナシも計算に含めることになります。チップ代の一部が「写真室」とか「お車代」にも振り分けられて→それらを含んだ金額があらためてメイン部門へと振り分けされていきます。計算が複雑になればなるほど→計算結果は正確になりますが(^_^;)どこまで計算するか?によってコストも違ってくるので→最終的には「どの計算方法にするか?」は経営者の判断にまかされています(*^_^*)

(参考) 補助部門の存在意義について

【例題2】では、「写真室」とか「お車代」とか「チップ」とかの支出を→メインではなくて「補助部門」として計算しました。

- ・ 式を挙げるから、わざわざ写真やさんをお願いしてるだけで(ー_ー)
- ・ 式に出席してもらうために「お車代」とかが必要になるだけで(^_^;)
- ・ チップを渡すのも、滞りなく結婚式を挙げるために決まってるやん(^_^;)

……というわけで、これらが主目的(結婚式を挙げる)から考えて?メインではないことは想像つくと思います(*^_^*)

部門別計算をする上で、ものすごく当たり前の「前提」として

「補助部門費は、自部門へは配賦しない(>_<)」

というのがあります。これは、補助部門は本来「自分のため」ではなくて「他人のため」に存在していることを考慮しているからです。

- ・ 写真やさんは「自分を職」のために仕事をしてるわけじゃないし(^_^;)
- ・ 「お車代」は、お金を渡すことが目的ではないし(^_^;)
- ・ チップを渡すのも、お金をバラまくためにやってるのではない(^_^;)

これがベンキョーのハナシだったら?「動力部門」とか「修繕部門」とか「工場事務部門」とかになってきますが、

- ・ 「動力部門」は→他部門に動力を供給するため
- ・ 「修繕部門」は→他部門が必要とする修繕をするため
- ・ 「工場事務部門」は→他部門の事務仕事を引き受けるため

これが、補助部門の存在意義です(*^_^*)♪なので、例えば「動力部門」で動力を使ったとしても?→それは自分で負担すべきではないし、「工場事務部門」にいる事務員さんの給料は→もちろん他部門だけでワリカン計算されるべきなのです。

5 日目 そうごうげんかけいさん 総合原価計算の特徴

月 日()

【今日の要点】

- ①総合原価計算とは、たくさん作っているモノの原価を→まとめて計算する方法である（作った数で割り算して→1つの原価を求める）
- ②実際に数えられないものには「たなおろしけいさんほう棚卸計算法」を使う
- ③キーワードは「げつまつしがかりひん月末仕掛品の評価」←（まだ出来てない分はいくらか？）

1 総合原価計算とは(^o^)?

総合原価計算は、機械などでモノを大量生産をしているときに用いられる計算方法です。受注生産とは違って、その多くはお客さんから頼まれる前に、どれくらい売れるのか「見込み」で決めて→お客さんはいろんなものと見比べながら？気に入ったら買ってもらうのも…というのが大量生産のスタイルです。お店や企業は「安くて良いモノ」をたくさん作って→それらをたくさんの消費者に買ってもらえるように日々努力しています。

大量生産の場合、フツーに原価を計算しようとしても！たくさん量をまとめて生産するので、まずは「ワタシはいくつ作ったのか？」を知る必要があります。大ざっぱに言うと、1個当たりの原価は「全体に使ったお金÷作った数」という割り算で計算しています(*^_^*)

【例題1】

自販機で買ったばかりの500mlペットボトル入りのお茶を、友達が「一口ちょうだい♪」と言って→途中までゴクゴクと飲んでしまいました(^_^;) さて？友達が飲んでしまった量は何mlだったか(-_-)？それを知るためにはどうすればいいのでしょうか？

(あなたの解答)

(解答例)

- ・飲んだ分を吐かせる…のか(-_-)；
- ・ペットボトルに残ってる量から逆算して求めるのか(-_-)？